

びん よの りひ

自らを由とする
ひとたちへ贈る
極私的な旅の記

目次

ソノヒビヨリ
2023年 第十一号 <早秋期>

発行元
たびたびまたたびプロジェクト
〒530-0041 大阪市北区天神橋一丁目18-27
Tel.06-6351-3474 Fax.06-6351-9364
発行日 2021年1月5日(季刊)

企画 たびたびまたたびプロジェクト編集委員会
制作 株式会社アートグローバルプラン

WEB <https://sonohibiyori.net/>
<https://www.instagram.com/sonohibiyori>
<https://twitter.com/sonohibiyori>



ソノヒビヨリ 奈良県・宇陀 「龍が祀られるパワースポットへ」
「熊と鹿の暮らし」
世界参画紀行 第十三話 ヨーロッパ・ドイツ連邦共和国
ソノヒビヨリ 沖縄県・西表島 「真冬の南国はやはり藍天だ」
フチモブ動物探訪 千葉県 千葉市動物公園
おれがもたらした 八九献目から

ソノビヨリ

A piece of
with a dragon
2023
Dec. 25 day

第三〇話 奈良県 宇陀市

「龍が祀られるパワースポットへ」

杉木立に囲まれ鎮座する「室生龍穴神社」

新年辰年、最初の旅はここ最近パワースポット神社として話題になってきた宇陀市室生に鎮座する「室生龍穴神社」に参拝にきました。なぜここを訪れようと思ったかは、色々な偶然が重なりクリスマスマスの日に呼ばれるようにやってきた（まあ、気まぐれと言えば気まぐれです・笑）。

秘境感満載の「室生龍穴神社」への公共交通機関アクセスは、昨年にも神社前までバスが延伸されたことで比較的訪問しやすくなりました。最寄り駅の近鉄大阪線「室生口大野」駅前から奈良交通路線バスで約一九分、「室生龍穴神社」に着きます。ただ、バスの本数は午前八時から午後六時の間に時間一本・、帰りの時間は必ず見とかなくちや危険です！

だけど、この本数のなさが秘境感漂うんですけど（笑）。バスを降りれば目の前が「室生龍穴神社」だ、鳥居の前には左右にそびえる二本の杉、樹齢六〇〇年以上と言われている。辺りを見渡しても人が見当たらない、平日の朝一〇時なのに・、この静寂が神域の外なのにパワースポットを感じてしまふ。早る気持ちを抑えつつ、杉の古木に見つめられるように前へ進めば神域に入る鳥居。この鳥居もかなり古いものだと思う、菌類？などが腐食して石肌の色が赤褐色に変色していた。



奈良県宇陀市「室生龍穴神社」

鳥居をくぐり広い斎場らしき広場を通り、石段を上ればそこにも巨大な杉が待ち受けている。吉祥のあらわれだと喜び「奥宮・龍穴」へ向かった。

「奥宮・龍穴」は溪谷の底部分に鎮座している、なので階段を降るしかない・、この参道は木の根などが地表に出ている、雨などの日は特に注意してください、天候の良い日でも歩きにくいからです。

一〇〇段ほどの急な階段の終わりに「通拝所」がある、ここが「室生龍穴神社・奥宮」「妙吉祥龍穴」だ。小さな「通拝所」が建っている、ここは土足禁止なので注意してください。私は知らず知らず土足で上がってしまった・、すぐに気づきましたが申し訳ございませんでした。

通拝所からの眺めは、右手側に「招雨瀑」という滝が見える。意外とかわい滝など感じた、龍神さまの棲む滝ならもっと凄い滝なんだと勝手に想像していた。その雰囲気は「

だんだん、杉の幹を見ていると龍の胴体のように見えてくる、これは神域のパワーなんだろうか・、。参拝の前には既に正月飾りが飾られていた、その周りに綱が張りめぐらされている、きつと鹿よけなのだろう。鹿には神さまなど関係なく、正月飾りの葉牡丹などは旨そうに見えるんだらうな（笑）。など雑念に塗れながらも、神聖な参拝へ向き合った。

この神社の祭神は通称・龍神さまだけ、その本当のお名前は水を司る神「高龍神（たかおのみかみ）」と・、。思いきや参拝に別の名前が掲げられている？。そこには「善如龍王」と書かれていた、調べてみると「高龍神」と「善如龍王」は同一人物（神）と分かったのだ。考えてみると日本書紀や古事記に出てくる神さまも、名前が幾つもあったりややこしい事を思い出した（苦笑）。

それと「善如龍王」は「空海」と関係があるらしい、その昔、干ばつで困っている時に「空海」が雨乞いの祈禱をすると「善如龍王」が現れ願いを叶えたと伝えられている。だからここが「室生寺」の近くに鎮座しているのだとも分かったのだ。

謎が解けたら、心が落ち着いた！「ご挨拶」をするために参拝の鈴を鳴らしローソクに火を灯した。なぜここでは「ご挨拶」なのかと言えは、この参拝の後に本殿があるからなのです。



参拝に「善如龍王」と掲げられている。その裏に赤い本殿が見えた。

参拝の横を通り奥の「本殿」へと目をやれば、杉木立の中に朱色に染まる本殿、緑と赤のコントラストが美しい。時より差し込む日の光が心地よさを増幅させてくれる、優しさを感じる神域で参拝を済ました。

ちなみに「本殿」は江戸時代・中期（一六七一年）に建てられたもので、奈良県の指定文化財に認定されています。神域の神域、自然の中にあるパワースポット

ここでの参拝を終え、次に向かう「室生龍穴神社」はここで終わりじゃないのですよ。この先には、御神体により近づける超神域・パワースポット「室生龍穴神社・奥宮」こと、龍神さまがいらっしゃる「妙吉祥龍穴」があるのだ！



「奥宮・龍穴」に入る鳥居、急勾配の谷を降りれば、そこは究極の聖地・パワースポットだ。

静謐で穏やか」と感じられる場所だが、雨でも降ればその表情はガラリと変わるだろう。

そして左手には、巨石に「穴」？のようなところに注連縄が掛かっている、ここが「善如龍王」が棲んでいると言われ

向かう前には、神社横の綺麗なトイレでお不浄は済ませておきましょう、奥宮にはトイレなどないですから。神社を出て、バスの停車場がある県道二八号線を南に約五〇〇mほど歩けば案内板が出てくる。県道には歩道がないので、車は少ないけど注意して歩くことをお勧めします。たまに来る車のスピードが異常に速いから！！

その案内板に従い左方向に進めば、なかなかの坂道が待っています（笑）。道は舗装されているので車で歩けますが、歩いて森林浴で磯れを落としてパワースポットに入るのが良いです。道中、熊に出会えないかとビクビクですが（苦笑）。

案内板から約二〇分の道のり、ほぼ上り坂です覚悟をして挑みます（笑）。歩き出して一〇分ほど少し緩やかになった坂道を右カーブすれば、中間地点付近の奇岩「天の岩戸」がある。なぜ、ここに「天の岩戸」があるのか定かでないが、ちゃんと拝所もある、天照信仰の場所なのかも知れないので拝んでおくことにした。



「天の岩戸」信仰は日本中にあるけど何故なんだろう・、。

鳥居の左右には綱が張られていて結界のようだ、鳥居の側には高さ五m弱の岩が真つ二つに割れていて両側の岩より注連縄が渡されている。岩の割れ目の隙間に賽銭箱が置かれていたので、神域の入場料としてお賽銭を入れとおくことにした。目的地まで一〇分、ひたすら登りカーブを曲がると「室生龍穴神社・奥宮」「妙吉祥龍穴」の表示が見えてきた。その時だ「キーン」と響く鳴き声の様なものが聞こえた！鳴き声の方を見れば、白いハート型のお尻が数に消えていった。熊でなく鹿だった・、よく考えれば鹿は神の使いとも言われている（ちなみにちゃんと、熊避けの鈴を付けていますよ）。これは、

ている「妙吉祥龍穴」だ。「穴」とは分かりずらいのだけれど・、。ただ自然な佇まいが時代を超え人々が守り受け継がれてきた証だと感じる。手を入れずにあるがままを残す、それが自然崇拜の本質だと考える。冬の空の下、木立から聞こえる鳥の囀りと水が流れる音以外は何も聞こえない。そんな静寂の中で深く深呼吸をし、もう一度、通拝してここを後にする。深呼吸をしたら急にお腹が減ってきた、昼時までにはここから近い室生寺周辺へ向かうことにした。通拝をお願いしたことは、帰りに熊に遭遇しないことを祈ったのだ（笑）。



「善如龍王」が棲んでいると言われている「妙吉祥龍穴」



神域に入る人を見定めようように左右に立つ樹齢・約600年の巨大杉



竜王と深い関係!?の「室生寺」

「妙吉祥龍穴」を後にして、バス停車場のある「室生龍穴神社」に向かい歩いていくと軽自動車が止まった。運転手していた方が、「下まで乗りますか？」と声を掛けてくれた。「旅は道連れ、世は情け」と言ったもので、そのご好意に甘えさせていただくことにした。話を聞けば三重県伊勢市から「妙吉祥龍穴」にお参りにきたそうだ、さすがは伊勢市民！信心深さが伺えると思心。ほんの五分ほどの旅先でのふれあい、名前も聞かずお別れしてしまった。本当にありがとございました！

神社前で降りてもらい、ここから徒歩で約一分室生寺周辺に向う。室生川沿い県道を歩くですぐ集落の入り口に差し掛かった。まずは腹ごしらえと思ひ、三〇〇mほどの商店街を端から端まで歩いた。端から端まで歩いた結果、悲しいくらいにシャッターが閉まっていた……。商店街の入り口付近で一番最初に声を掛けてくれた「室生寺」門前に店を構える「旅館 橋本屋」さんまで戻ることになった。創業明治四〇年の老舗旅館「橋本屋」は「室生寺」に掛かる「太鼓橋」横で、お昼に食事処として営業されている。歴史を物語る店構えと内装はさすがだ、それと著名な作家が数多くここを常宿として利用していた。客室には写真家として有名な「土門拳」さんが撮影した写真を飾っている。今でも宿泊が出来るのか聞けば、残念なことこの建物での宿泊は行なっていないらしい（現在）。



「室生寺」門前の明治四〇年の老舗旅館「橋本屋」。 「山菜定食・あじさい」 2,300円

客室には一組のお客さんが居るだけで貸切状態だ（当たり前か、クリスマスですから）、客席から「室生寺」に架かる橋がよく見える席に座れた。「現生で腹を満たしたら、あの橋を渡って浄土に行こう」と、選んだものももちろん精進料理的な「山菜定食・あじさい」二三〇〇円。ご不浄をしないため動物性タンパクは一切なし（少し寂しいけど）、味

は優しくほっこりして美味しい、素材を活かした何の術もない昔からの調理が心に染みます。室生に来たならばおすめのランチですよ！

「奥の院」は奥にはなく「山頂院」だった。

お腹も満たした、さあ！「室生寺」へ。太鼓橋を渡り、入山料六〇〇円、国宝が間近で見られる「寶物殿」四〇〇円で浄土に向かう。

ちよつと余談ですが、実はこのお寺の訪問は予定してなかったのですが、急遽参拝することに。なぜかと言えば「室生寺」がかつて「龍王寺」と呼ばれていたからだ。「日本紀略」によると、「五〇代・桓武天皇」がまだ親王の頃、病を患った。その治癒を祈願するため「妙吉祥龍穴」で祈禱を上げさせた。すると病は癒やされ五〇代天皇に即位した。その感謝の気持ちを込め勅命を出し「室生寺」を大きくしたと伝わっている。このような事を知った限り！龍穴パワースポットからは外せないと思ひここにきたのです。

阿吽の仁王像が眺む「仁王門」を越えんと聖域、早くも陽が傾き出し出てきています。これは足早に回らなければと気持ち焦る……。焦る気持ちが燃え、石段の上の国宝の仏像が祀られている「金堂」に向かった（ここは撮影禁止なので注意です）。心を落ち着かせ



間に当たる朱色が美しい「仁王門」、冬の弱い光でもありがたい。

「金堂」に上がれば、平安前期に作られた国宝「葉師如来立像・文殊菩薩立像」、そして鎌倉時代の重要文化財「十二神持立像」の六体（子神・丑神・午神・申神・戌神・亥神）が仏たちを守るように前に立っている。数分間、見惚れていると、柱の影から声が聞こえた、その声の主はお坊さまだったのだ。しばらくの間、親切に色々教えてくださった。きつと、アホずらをしていた私が悪魔道に落ちないよう説法してくれたんだと思う（笑）。

お礼を言い「金堂」横の石段を上がって「本堂」へ、足早

にお参りを終え「五重塔」に向かうことにした。「五重塔」に向かう石段は、先ほどの石段より少し長苦なっている。嫌な予感が頭を過った。嫌な予感はさておき、平成一時〇年の台風で甚大な被害を受けた国宝の「五重塔」は綺麗に修復されていた。今でも覚えている、巨大な杉の倒木に破壊された「五重塔」の映像を日本の修復技術は本当に凄いと改めて思った。

次に向かうは「奥の院」、「五重塔」横の参道から何やら怪しい気配がしてきた。一度降り、緩やかな石段を上がって



朱色の橋を越えれば、それは修行の道だ……。目が眩む傾斜の石段。こなければよかった……。

と絶望的な気持ちになるほどの急勾配の石段が現れたのだ。とにかく登るしかない、途中、手水場の休憩場があったので一休みをした。息を整えながら下を眺めていたら、数人の参拝者が石段を見上げては諦めて帰る姿を見た。それも仕方がないだろうと思う、私自身も心が折れそうになっていたから（苦笑）。

休憩を終えて再度、石段を只ひたすら登っている、ようやく御堂のような建築物が見えてきた。御堂は舞台のような造りをしていて、さぞ良い景色が待っているんだと信じ込み頭張るだけ。

なんとか「奥の院」に到着。そこには重文の「御影堂」、お土産やお札を置いている売店がある。



「奥の院」に建つ「御影堂」。

もう、ヘトヘトでも見る気がなくなっている（苦笑）、せめて先ほどの舞台から景色を眺望して降りることにした。御堂を回り込み舞台側へと回ってみれば、雑木林に囲まれている！それでも見える隙間を探し出し、室生の集落を見下ろした。絶景と言ってもいいが満足な気持ちが影らんでいく、仏のご加護だと感じることにする。

時計を見ればすでに三時前、「寶物殿」を見学しなければいけない重い腰を上げた。長い長い石段を降り、登りより楽だと言え降りには膝に負担がかかる、麓の「寶物殿」に着く頃には膝の笑いが止まらなくなった（情けない……）。

しばらく「寶物殿」前で休憩を取り入館。この「寶物殿」には先ほど「金堂」で鑑賞した「十二神持立像」の残り六体（辰神・未神・巳神・酉神・卯神・寅神）と「十一面観音菩薩立像、地藏菩薩立像、釈迦如来坐像」などが展示されていて間近で見ることが出来る。仏像の造形美と彫りの細かさ

がよく分かります。入館料の四〇〇円は絶対に安い。ヨレヨレになり、聖域から現生に戻る太鼓橋を渡ると煩惱が湧いてくる。疲れた体には甘いものだ！お昼に集落で見つけていた和菓子屋さんにも名物「よもぎ餅」を買いに行くと、パチ？が当たったのか売り切れ……。仕方がないので、その手前にあった「栄吉」さんで「よもぎ回転焼（一個一〇〇円）」を買い、疲れた体を癒し帰路につく事にした。「龍」のパワースポットを巡ることで、より良い辰年を迎えれそう



入山口にある「寶物殿」、横には売店とトイレがあります。



多くのテレビ番組が取材に来た「よもぎ回転焼・栄吉」さん生地はもっちりして、よもぎの香りがいい！とても美味しい回転焼です。



「室生寺 五重塔」



還暦前、写真家の「写して候・寄って候」 天皇御陵踏破の旅

江戸時代 一〇八～一一一代天皇陵

写真取材 赤木賢二



五十路もなかばの頃、ふと考えた。
日本国とは何なのか、日本人とは何なのか
その答えを探す為に、
2600年を遡る時空の旅へ出た
イデオロギーなど関係無い、
ただ、今ここに残る時間の集積を写してみたい

一一一代 後西(こさい)天皇陵
諱 良仁 ながひと 在位年 西暦一六五四～一六六三年
陵 形 九重塔 皇 居 京都御所

所在地 月輪陵 京都府京都市東山区今熊野泉山町 泉涌寺内
最寄駅 JR・京阪本線「東福寺」下車 約一五〇〇m、徒歩約五分

「一一一代・後西天皇」は「一〇八代・後水尾天皇」の第八皇子。世襲親王家「高松宮二代」を継承していたが、兄(腹違い)の「一一〇代・後光明天皇」の突然の崩御により即位となった。その即位の背景には、先帝「後光明天皇」の養子に入っていた「後西天皇」の実弟「誠仁親王(のちの靈元天皇)」は生後間もないため、即位できるまでの中継ぎ要素の強いものだった。その後一六六三年、一〇歳に成長した「誠仁親王」に譲位した。

その御代は天災・火災が続き、民は天皇の不徳を責めるようになり、この世情に流されるように譲位に至ったとも伝えられている。

一一二三代 靈元(れいげん)天皇陵
諱 誠仁 さとひと 在位年 西暦一六六三～一六八七年
陵 形 九重塔 皇 居 京都御所

所在地 月輪陵 京都府京都市東山区今熊野泉山町 泉涌寺内
最寄駅 JR・京阪本線「東福寺」下車 約一五〇〇m、徒歩約五分

「一二三代・靈元天皇」は、中継ぎ要素が高かった「一一一代・後西天皇」の譲位を受け元服後・数え一〇歳で即位した。幼少期から聡明ゆえに父の「一〇八代・後水尾天皇」を寵愛されたと言われている。教養も深く、そのため幕府は天皇を警戒し監視の目を強化した。その後、上皇となっても朝廷運営を親政で行うことが、関白と臣下たちの合議体制が基本という「近衛基熙」とたびたび衝突した。

その生涯は、朝儀の再興に心血を注ぎ一七三三年・七八歳で崩御する。その御陵は「東福寺」内、二十五陵五灰塚九墓もの天皇・皇族が眠る「月輪陵」にある。



1 2 高野山にある「仙陵」、「奥の院」を左に曲がれば到着した。「仙陵」前には「天皇皇族髪齒爪塔地」の表示があった。



1 2 後西天皇の旧殿を移築した「宸殿」が建つ「毘沙門堂門跡」。第六王子「公井法親王(輪王子宮)」が第三世住職に就任したときに送られた。



「仙陵・天皇皇族髪齒爪塔地」

一一〇代 後光明(こうみょう)天皇陵
諱 紹仁 つくひと 在位年 西暦一六四三～一六五四年
陵 形 九重塔 皇 居 京都御所

所在地 月輪陵 京都府京都市東山区今熊野泉山町 泉涌寺内
最寄駅 JR・京阪本線「東福寺」下車 約一五〇〇m、徒歩約五分

「一一〇代・後光明天皇」は「一〇八代・後水尾天皇」の第四皇子、徳川幕府二代将軍「徳川秀忠」の五女の「東福門院(源和子)」が養母として育てた。一六四三年、先帝「一一〇九代・明正天皇(興子)」の譲位を受けて、一歳で即位した。「東福門院(源和子)」が養母とされたため、徳川氏とは形の上で外戚の地位を保っていた。ただ、父の「一〇八代・後水尾天皇」と同じく幕府の関与を嫌い、事あるごとに幕府と衝突したと伝わる。その為、在位一二年・二二歳で崩御したのも幕府による毒殺ではないかと言われている。

その御陵は「泉涌寺」内の「月輪陵」に葬られている。また、「一一〇代・後光明天皇」の大葬より、従来火葬(荼毘)を改めて土葬の制にした。その後、「昭和天皇」に至るまで歴代天皇は土葬とされている。



1 「後光明天皇」が皇后懐妊の時、安産祈願の勅命を下した「大蓮寺」



2 3 「後光明天皇」の足跡を探そうとしたが中々無い・・・探し出せたのが、京都市のど真中だった。本堂は意外にこじんまりしていた。

一一三代 東山(ひがし) 天皇陵
諱 朝仁 あきひと 在位年 西暦一六八七〜一七〇九年
陵 形 九重塔 皇 居 京都御所

所在地 月輪陵 京都府京都市東山区今熊野泉山町 泉涌寺内

最寄駅 JR・京阪本線「東福寺」下車 約一五〇〇m、徒歩約五分
一一三代天皇には、朝幕間で内定していた兄(一二二代・靈元天皇 第一皇子)一宮(済深法親王)を「大覚寺」に入寺させることで、靈元天皇・第四皇子の「一一三代・東山天皇」が即位することになる。

また、朝儀復活や王政復古に尽力していた父の「一二二代・靈元天皇」の意向により、約三〇〇年ぶりに「立太子礼」を行い皇太子となった。即位後には、長く廃絶していた大嘗祭の儀式を復活させた。この御代に、儒学者または政治家「新井白石」の建白により「宮家」の創設が始まり、皇室領も一万石から三万石となり朝廷は財政面でも好転した。
その御陵は「泉涌寺」内、「月輪陵」にある。



1 2 今回も「東山天皇」の足跡を探して叡山電鉄鞍馬線「岩倉」までやってきた。中宮・承秋門院の女院御所を移設した「実相院」。

一一四代 中御門(なみかど) 天皇陵
諱 慶仁 やすひと 在位年 西暦一七〇九〜一七三五年
陵 形 九重塔 皇 居 京都御所

所在地 月輪陵 京都府京都市東山区今熊野泉山町 泉涌寺内

最寄駅 JR・京阪本線「東福寺」下車 約一五〇〇m、徒歩約五分
「一二三代・東山天皇」の第五皇子、父より譲位されて一〇歳で即位する。先帝は譲位後、院政を行うが同年に崩御している。このため、祖父の「靈元上皇(一二二代天皇)」が院政を行った。

「一一四代・中御門天皇」の在位期間は、「六代將軍・家宣」から「八代將軍・吉宗」の時代で、朝廷と幕府の関係は比較的良好であったと言われている。また、朝廷の古儀に関心を深めて宮中儀式を復興させた。特に雅楽の笛に造詣が深く、その音色をキツネが聴きに来るとの逸話が残っている。
譲位後、一七三七年、三六歳で崩御した。その御陵は「泉涌寺」内、「月輪陵」にある。



1 2 「藤森神社」には「114代・中御門天皇」より下賜された、「御所の賢所(内侍所)」が残っている。現存する「賢所」では最古のもの。

一一五代 桜町(さくらまち) 天皇陵
諱 昭仁 てるひと 在位年 西暦一七三五〜一七四七年
陵 形 九重塔 皇 居 京都御所

所在地 月輪陵 京都府京都市東山区今熊野泉山町 泉涌寺内

最寄駅 JR・京阪本線「東福寺」下車 約一五〇〇m、徒歩約五分
父帝「一一四代・中御門天皇」の譲位により踐祚、一六歳で即位した「一一五代・桜町天皇」。この御代には、江戸幕府の「將軍・徳川吉宗」の理解・助力を得て長らく途絶えていた、朝廷儀式の復古に力を入れた。それにより、「大嘗祭」の再復活や「新嘗祭」、「宇佐神宮、香椎宮、春日大社」などへの「奉幣使」などの儀礼を復活させた。このことにより、天皇の権威向上に努めていたことが窺える。
一八歳で譲位し、三年後の三二歳で崩御した。その御陵は「泉涌寺」内、「月輪陵」にある。



1 「転法輪寺」に訪れた。崩御された「桜町院」の追福のために造られた「阿弥陀如来座像」。



2 3 竜宮城のような楼門をくぐり本堂へ向かう。大佛の後ろにある「光背」に「桜町天皇」の遺品の鏡がはめられている。「楼門」の釣鐘には「桜町院」の名が刻まれている。その転写が本堂に飾られていた。

一一六代 桃園(ももその) 天皇陵
諱 遐仁 とおひと 在位年 西暦一七四七〜一七六二年
陵 形 九重塔 皇 居 京都御所

所在地 月輪陵 京都府京都市東山区今熊野泉山町 泉涌寺内

最寄駅 JR・京阪本線「東福寺」下車 約一五〇〇m、徒歩約五分
「一二五代・桜町天皇」の第一皇子。父の譲位により踐祚、七才で即位した「一一六代・桃園天皇」。聡明で学問を好んだと伝えられている。「竹内式部」が家塾を開き、若い公家たちに「垂加神道」の講義を通じ、「尊王論」を説いた。そのことにより、朝廷内の尊王論者の若い公卿が多く幕府に処罰された。

その事件の四年後に「桃園天皇」は、二三歳の若さで崩御した。皇子の「儲君英仁親王」は幼いため、幕府が承認したのが「皇姉・智子内親王」だった。「皇姉・智子内親王」の即位を行うまで、「桃園天皇」の崩御したことを公表しなかった。その御陵は「泉涌寺」内、「月輪陵」にある。



1 拝観料の500円を払い、水墨画で有名な室町時代の「雪舟」作の庭を拝見する。



2 3 桃園天皇の中宮(皇后)の「恭礼門院御所」を移築した「東福寺 芬陀院」この建物全てが桃園天皇・中宮「恭礼門院御所」なのだろうか・・・？

一一七代 後桜町(ごさくらまち) 天皇陵
諱 智子 きとこ 在位年 西暦一七六二〜一七七〇年
陵 形 九重塔 皇 居 京都御所

所在地 月輪陵 京都府京都市東山区今熊野泉山町 泉涌寺内

最寄駅 JR・京阪本線「東福寺」下車 約一五〇〇m、徒歩約五分
「一二七代・後桜町天皇」は「一二五代・桜町天皇」の第二皇女、先帝「桃園天皇」とは異母弟である。先帝の皇太子「英仁親王」が即位する予定だったが、一歳と幼いため二四歳で即位した。また、「宝暦事件」後なので幕府の意向もあつた即位とも言われている。

その御代は九年と短く、その後、甥である「英仁親王」に譲位し「太上天皇」となった。一八二三年、皇子を残さぬまま七四歳で崩御した。現在、皇室史における最後の女性天皇である。その御陵は「泉涌寺」内にある「月輪陵」に治定されている。



1 御所が火事になり、ここが仮御所となりつた「粟田御所」または「小御所」とも呼ばれていた。



2 3 「青蓮院門跡」、「薬医門」の横には大きな楠が立っている(京都市の天然記念物指定)。「霧島の庭」の「龍心池」にかかる美しい石橋は、「跨龍橋」と呼ばれ切石二枚で作られている。



世界拳闘紀

WORLD BOXING JOURNEY

第13回 ドイツ

「ボクシングが人生に似ているのではない。」
人生がボクシングに似ているのだ！
いざ行かん、拳闘世界一周の旅へ…

真面目で、待ち合わせに遅刻しなさんか

第13回ドイツ。ドイツのイメージって？工業国。ドイツ製品は信頼できる。真面目。お堅い国民性。勝手なイメージだけだね。

だから、ボクサーも真面目実直勤勉、基本的に忠実、派手な事はしない…ってそれ、塩ボクサー製造国家みたいやん！
ええ、誤解を恐れずに言うと、塩ボクサー大国かも。地味ボクサー大国かも。でも決して弱小国家ではない。鉄壁、ディフェンスの強者を次々と生み出した国家でもある！

00年代は女子が盛り上がった気がするよ

90年代後半から2010年頃まではヨーロッパの女子ボクシングは盛り上がった。スター性のある選手がどんどんヨーロッパで活躍。その中でもドイツは女子ボクシングのメッカのように盛り上がった。

実際、イナ・メンツァー、レジーナ・ハルミツヒ、スーザン・ケンティアン(14回防衛！)とドイツ王者はスター性もあつたし。

でもいつの間にか以前ほどの盛り上がりは感じないし、現在は男子と同じく女子もアメリカが本場って感じ。(女子は可能性だらけなので、これからもっと盛り上がりかと思ってます。はい)

結局今でも有名なのはこの3人下かも

マックス・シユメリング。長い間ジョー・ルイスの引き立て役、ルイス物語のハイライトとして、ない？知っていても忘れられてる？

アウトゲはほつとけ？
ジョー・小泉もそう言うしかない、鉄壁のディフェンスに圧巻のタッチボクシング！34戦34勝！6KO!!いや、別にKOだけが全てじゃないが、驚きの低さ(ちなみに同じく生涯無敗王者のバレットは27勝27KO!)
ニックネームは「ファントム」お化けだもん、誰も触れないのよん。地味ツヨ・塩ツヨ製造工場ドイツが生んだ史上最高の(塩)ボクサー！

22度の世界戦で試合で

スーパーミドルという、最も地味な階級(次点はクルーザー)。異論は認める(で重なる防衛は21回。そんなリング誌のPFPに入って当然のようだが)が、彼も彼の対戦相手にも一人もいません(戦わぬライバルのジョー・カルザゲは2位まで上昇したのにね)。
しかし、7年間も王座に座り続けたのは不自然の節制とたゆまぬ努力の積み重ね。ネタ扱いされがちだが(本稿も少ししていると自覚)、偉大な王者である事に変わりはない。

プロの引き立て役じゃないもん

フェリックス・シュトルム。ああ、はいはい、デラホーヤに史上初の6階級制覇の偉業を達成させた人ね？

チヌ対アメリカ勸善懲悪物語の悪役として歴史に登場しがちだった人物。

1930年ニューヨークでジャック・シャークとヘビー級王座決定戦を行うも、ロープローを食らったシユメリングはそのまま試合続行できず、反則勝ちで王者に。ロープローチャンプと言われファンからは認められない不憚な王者に。

ならばとシャークと再戦！有利に試合を進めるも疑惑判定で陥落。
その後チヌが台頭すると、アメリカではナチのイメージとセットにされ、悪役に。そんな中、時期世界王者候補として破竹の快進撃を続ける若きジョー・ルイスの囁ませとして戦うも、何とここでKO勝ち！するとヒトラーからもメッセージ届くわ、ドイツはお祭り。ナチスに国威発揚の政治利用されまくり。

で、ルイスと再戦、そして

で、1938年の第二次大戦直前に今度は王者となったルイスとの再戦。完全にアメリカvsチヌの構図にアメリカ盛り上がりすぎ。異常ムードにびびったシユメリングのセコンドが逃げるほど。試合はシユメリングを研究してきたルイスのKO勝ちに。こころは「独裁に対する自由の勝利！」みたいなストーリーでこすり倒されてきたので割愛。

後に「負けて良かった。勝ってチヌの英雄になって勲章もらってたら戦後、戦争犯罪者だったかも」と述べているし、実は「チヌヤ人の子供を家に匿っていたり。がつり反チヌだったのだから」こころは後年も長い事ピックアップされることは少ないです。
—デラの試合だけのイメージで語らないで欲しいです。

アマエリートだし無敗で王者になっています

本名、アドナン・チャイッチ(フェリックスシュトルムはリングネームだったのね)。アマ時代はシドニー五輪に出場、3回戦で破れる。122戦113勝という抜群の成績でプロ転向。鉄壁のディフェンスと堅実なジャブ(もうこの言い回し飽きた)をベースに連勝を重ね2003年にWBOミドル級王座獲得。そして初防衛戦でデラホーヤに敗北。でも微妙な判定。地味とスターじゃスターに星付くよね〜と言われたり(因みに筆者はデラの勝ちで問題なかった派)。

ここからシュトルムの本番

陥落後も勝利を重ね2年後には王座に復帰。でも初防衛戦でハビエル・カスティリエホKO負け。するも再戦でリベンジまた王者に。
ここからコソコソと12度防衛(6度目の防衛では日本の重量級エース佐藤幸治にも圧勝7回TKO勝利)。スーパーミドルも制した。が、キャリア後期には所属プロモーションが崩壊して自分でシュトルムプロモーションを立ち上げたり、対戦相手からグローブすり替えられた疑惑、ドピング陽性など、リング外の方が色々あった感だ。

なかった。

色々あつたが、ちゃんと引退後成功しています

引退後は事業で成功。コカ・コーラ社の重役にもなります。逆にかつてのライバル、ジョー・ルイスが貧乏で生活困っているのを知って、経済援助を行い、葬儀費用の一部も負担。最後は国や戦争を超えた戦友との友情の勝利。みたいな良い話エピソード。

そんなシユメリングの後を継ぐ

ジェントルマン

時代は移り、ナチスの尖兵みたいなイメージから、ナチスに抗ったスポーツマンとしてのイメージも復活してきたシユメリング。いつしか国外に向けた国民的英雄にすらなってきた？
で、当然のように映画化(ザ・ファイト 拳に込めたプライド)2010年。
その映画の主演シユメリング役を務めたのがヘンリー・マスケさん(まだ存命だったシユメリングから直々のオファー)。
勿論ただの俳優じゃないぜ。何せソウル五輪で全試合1ポイントも落とさずに金メダル！長身サウスポースタイルから繰り出す右ジャブとクリンチが冴えずすぎて、誰もが塩漬け！プロデビュー後には無敗のまま93年にIBFライトヘビー級王者トム・コリンズを潰して王座獲得、その後も長身のサウスポースタイルから繰り出す右ジャブとクリンチが冴えずすぎて、誰もが塩漬け！

地味だけど他にもいるもん！

現役ヘビー級王者だつて！(知ってた?)

ドイツ王者は地味階級スーパーミドルやクルーザーの地味王者が多い気がする。アルツール・アブラハムなんかは攻防分離過ぎて面白い王者だつたけど。他階級にも粟生に敗れたタイベルトや、近年ではドミニク・ポージェルだのビンセント・オケアルティエリなど、地味な王者を輩出し続けている。ちなみに2024年3月時点でWBAのヘビー級王者がいるんです。
マヌエル・チャヤさん。え？ウシクとフューリーじゃないの？
2017年レギニャー王者になるも(シユメリング以来85年ぶり)あれやこれやで試合できず21年休養王者→22年休養王座すら剥奪→23年WBAと和解してレギニャー王者に。遂に24年3月に初防衛予定。

そんな地味塩製造工場の後

我がドイツボクサーの堅実さ地味さは世界一！イット!!とドイツ人が自負してるかはさておき、まだまだ欧州のいや世界ボクシングの強い脇役国家として今後も強い女人受けする選手を輩出し続けてくれるはず。そんなドイツに今後注目じゃ！
という訳で、それではまた！

文:コヒトロック
イラスト:Kimura

気がつけば10度の防衛、11度目の防衛戦でバージル・ヒルに1-2で際どく判定負け。そしてこの1敗であつさり引退。試合前からこの試合で引退するって言うってたしね。気持ちが入っていなかったのかもね。

11年ぶりに復帰してこれ

で、時は流れ11年後に突如復帰。唯一の黒星の相手、バージル・ヒルと再戦、この時ヒルは現役のクルーザー級王。んな無謀な！
しかし、ここでマスケはヒルを塩漬け完封。んな事ある!?で、二度目の引退。一時期ドイツボクシングの顔、ドイツのシンボルって側面もあった(本当?)。でも、世界的には地味です。ボクシング史に残る地味ツヨ。

引き分けもなく全勝のまま、引退した王者を挙げてみる

皆さん、そう聞かれたらまず誰でも、フロイド・メイウエザー!!で答えますよね。ええ、そうです。正解です。では他には？ロッキー・マルシアン！そう、レジェンド。正解。アンドレ・ウォード！はい神の子正解！エドウィン・バレット！悲しいキャリアの断たれ方でしたが正解。ディミトリ・ピログ！そう、彼も怪我が無ければゴロフキンのように偉大な王者になったかも。

他にも複数人いますが、地味だが長期に渡って地味に塩漬けし続けた生涯無敗王者と言えは、我がスペイン・オットケさん！知られてい

「ゆったりゆったり千葉県動物公園」

住所 千葉県若葉区源町 280番地
 開園時刻 午前9時30分～午後4時30分
 休園日 水曜日（水曜が祝日の場合は翌日）
 入園料 大人（中学生以上）700円
 中学生以下 無料
 駐車料 普通車 700円



レトロな雰囲気の入園ゲート

「自然と動物に癒される動物園」

東京ドーム2.3個分の広大な敷地面積を有する千葉県動物公園は、「日本の都市公園100選」に選ばれている自然豊かな動物園。東京からもアクセスが良く、都会の動物園としてはとてもゆったりしていてリラックスできる動物園だ。

「チーター界のビックママ『ズラヤ』」

千葉県動物公園と言えば、ネコ科の動物好きにはたまらない「チーターラン」。(1周140メートルの放飼場走路で疑似餌を追わせる形で、チーターの捕食を再現する)月に数回の開催で、今回はタイミングが合わずでしたが、一番会いたかった「ズラヤ」に会う事ができた。遠くノルウェーから繁殖のためにやってきたズラヤと2021年にこれまたチェコから来た「フロド」との間に6頭の子供が誕生した。通常2、3頭しか生まれないチーターの子供が6頭、しかも初産のズラヤはとてつもなく6頭を育て上げた。

やんちゃだったチビーター達は無事成長し、千葉生まれの「C」の文字を頭文字に名付けられ、繁殖のために全国の動物園で暮らしている。チーターは絶滅危惧種に指定されていて、海外から来たカップル同士に生まれた新たな血統が、チーター繁殖の救世主として注目されている。・・・と書きながら、動物園の使命は理解しているものの複雑な気持ちにもなる今日この頃。チビーター達がみんな快適に暮らせますように(祈)。

ちなみにチーターランは4年ぶりに横浜動物園ズーラシアでも再開しているそうです。走り出して数秒で時速100キロ近くになるチーターの走り、一度は見てみたいものです。



ズラヤママの美しく穏やかな姿はすてき

「見つけれたらラッキー！動物科学館の森に暮らすナマケモノ」

室内に熱帯雨林を再現した動物科学館にはナマケモノや様々な鳥が暮らしています。常連さんに聞くと、毎日雨を降らせる時間帯があり、その時にナマケモノが活動する事が多いらしく、張り込み開始！雨が降り出すと、ダクトからゆっくり顔を出すナマケモノが見られました。動物ファーストな動物園で、その動物らしさが見られる嬉しさはひとしおです。

「世界一美しい猿と言われるブラッサゲノン」

千葉県動物公園には、中央アフリカに生息する世界一美しい猿とも言われる「ブラッサゲノン」の家族が居ます。体全体が茶系の複雑な毛色で、鼻から顎にかけての真っ白な毛がとても綺麗で、アラインをひいたようなクリクリお目目がなんとも愛らしいおサルさんです。まだまだ小さい子供達がお母さんに寄り添う姿がとてもかわいい。

このモンキーゾーンは10種類以上のおサルさんを飼育していて、ゆっくり見て回ると、あっという間に時間が過ぎてしまうので注意です。動きが早すぎて撮影出来なかった「ワタボウシパンシェ」は全国でも珍しく、インディアンの頭飾りを付けたような、めっちゃくちゃ可愛い小さなおサルさん。いつかその可愛い姿を撮影しようと思います。

13歳のトウヤ君。目が合った気がします！



13歳のトウヤ君。目が合った気がします！

ぶちもふ どうぶつ探訪

行ってみた Zoo



チーター展示施設は2200平方メートル



ゆっくりのんびりマイペース



世界一美しい！ブラッサゲノン

園内には所々に畑が広がっていて収穫体験ができる。



渓谷に架かる吊り橋を渡れば、動物たちとのふれあいゾーンへ

震える足でなんとか前に進み(苦笑)、「村のエリア」へ到着。吊り橋を渡りきれば、大きな池の袂に「カピバラハウス・ふれあい体験コーナー」にありました。思ったよりも少し小さく感じる施設だけど、清潔感があってカピちゃんたちには良い環境そうです。その上、観覧は無料でカピバラとふれあうことができるので、お財布の環境にも良いですね(笑)。

もっともっとカピバラとふれあいたい方には、「笹の葉(おやつ)」が1本100円で売っています(数量限定)。「笹の葉」を見せてあげれば、嬉しそうなお顔を寄ってきます〜かわいい！ただ、笹の葉1本で・・・もう少しあげたかったんだけどな・・・。柔らかな日差しの中で、人懐っこいカピバラを優しく撫でていると、こちらまでのんびりマイペースな気分で癒される〜♪

柔らかな日差しに包まれてゴロリ〜ん。寝ている姿、とてもキュート！！



ひとつひとつの表情や仕草が、本当にかわいいカピちゃん〜

「堺・緑のミュージアムハーベストの丘」

住所 大阪府堺市南区鉢ヶ峯寺
 開園時刻 午前10時～午後5時
 休園日 水曜日(祝祭日などや繁忙期には、休日を変更する場合があります。)
 入園料 大人(中学生以上)1200円
 こども(4歳以上)800円
 幼児(3歳以下)無料
 駐車料 普通車 無料



ヨーロッパ風のエントランスゲート

ここ、本当に堺市なの？ 自然の中に広がる体験型農業公園

今回のプチモフは大阪府堺市の南端に位置する、「農業と自然に触れ・親しみ・学ぶ場」をテーマにした体験型農業公園「堺・緑のミュージアムハーベストの丘」にお邪魔します。

この公園は大きく2つのエリアから構成されていて、入場ゲートがある「街のエリア」、そこから吊り橋を渡り「村のエリア」へと繋がっています。そして各エリアには「ソーセージなどの加工」「畑の作物を収穫する」体験、そのほかにも「かわいい小物のクラフト」「木工・陶芸」体験ができるコーナー(有料)がありファミリーで楽しめる要素がいっぱいです！それと、長きに渡り人気がある「シルバニアファミリー」公認の「シルバニアパーク」があってショーも開催されてるんですよ。ファンには嬉しいグッズが買える「シルバニアファミリー」のショップもありましたよ。ショップ内には、たくさんの親子さんたちで賑わっています(ちょっとびっくりしました！)。

さて、私たちの目的「村のエリア」の超〜癒し系動物・カピバラがいる「カピバラハウス」へ、スリル満点の吊り橋を渡り向かいましょう〜！



吊り橋を渡り「街のエリア」から「村のエリア」へ。

カピバラの後はワンコに癒されて、その次は・・・！？

「カピバラハウス・ふれあい体験コーナー」で癒された後に、次に向かうのが「シーブハウス」。ここも体験型施設でエサやりは勿論、季節により羊の毛刈りも体験できるんです、ニュージーランドみたいです。

その隣には15分300円でワンコと戯れる「パウワウハウス」を見つけ、ちょうど開催時間だったので入場！もう〜！このワンコはみんなフレンドリー〜！椅子に座った途端に膝にジャンプ！そして顔にペロペロ攻撃をされたり〜(笑)。

他のワンコともふれあいたいのだけど、膝の上から降りる気配なし・・・。しょうがないないので、そのまま15分終了。この「パウワウハウス」無茶苦茶気に入りました〜、少人数制だからじっくりとワンコふれあうことができます！「パウワウハウス」で味をしめたので、猫とのふれあいを求め「ねこのうち・にゃんみーと」に行くも、予約がいっぱいで入場できなかった・・・(残念)。

動物の数は少ないけど、いろんなことを体験できる「堺・緑のミュージアムハーベストの丘」に満足して、この探訪を終了するので〜。2日くらい顔の周りにワンコの匂いがした(笑)。

ソノビヨリ

It's always raining on the island

2012

Feb. 20-27 day

第三話 沖縄県 西表島

「真冬の南国は曇天続き・・・」

一日目・初日
関西出発時には晴れ、八重山上空より天気は崩れ気味



関西国際空港を飛び立ち四国上空、晴れ！
けれど、乗り継ぎの那覇では曇りになっていった。

南の島のイメージといえば、青い空、エメラルド色に染まる海、極彩色の動植物のイメージがあると思うのですが・・・
・ いえいえ、南の島といえど雨季や寒い冬があるのです（笑）。そんな季節の島を「一度、来てみたら。二月には島内最大のイベント『やまねごマラソン』も開催される。」と島の諸先輩から言われたことがきっかけで「一度行ってみよう！」と思い旅立ったのです。

その上、この時期の沖縄方面の航空チケットは、比較的安いのでリーズナブルに八重山を旅することができます。八重山ヘビーユーザーなら「遅う南の島の顔を見たい」と思っている人も多いでしょう！ そんな方の参考になればと思います。今回は書いてみました。曇天の南の島を満喫してください（笑）
本州は全国的に春を感じさず晴天！ 四国、九州の上空を過ぎ沖縄本島へ到着、乗り継ぎに少々時間があるので、沖縄そばを食べ空模様を確認。沖縄本島は薄曇りと言えど、青空が時折見えます。ここから石垣までのフライト時間は約一時間、距離にして約四七〇キロ。この天気なら「諸

三日目 鳩間島 曇りのち、一瞬晴れ、その後ずくと曇り。



鳩間島に渡って曇り曇天、「いとま浜ターミナル」は誰もいない・・・

翌朝、朝食後「池田屋」さんから歩いて五分のバス停から、路線バスに乗り、上原へ向かった。空模様は曇天、ただ向かう鳩間島は、西表島から五キロ離れている沖合なので、こちらが大雨でも晴れていることが多く！ なんだか青空が既に恋しいので（笑）、ほのかな期待をして上原から「デンサー・保兄」の船で鳩間島に渡った。船で約一分、「いとま浜ターミナル」に到着。思った通りだ、西の空の切れ目から青空がのぞいている。この青空が、この旅最初最後の青空になることも知らず・・・
島内一周道の半分あたりで、いよいよ空模様は怪しくなってきた。道を過ぎるヤギにも気を止めず母家まで急いだ。母屋前の「前浜」から西表・上原を見れば雨で霞んでいる、こちらに雨が来るのも時間の問題だ・・・だがここは「酒の島（笑）」、酒盛りが始まれば雨など関係ない！！ また、しこたま呑んで一日が終わる。



「前浜」、少し見える青空が嬉しい。
「前浜」から西表島・上原の眺望。西表は大雨だろうな、明日も絶望的な天気予報を耳にした。

先輩たちから聞いた話とは違うだろうな」と思い石垣便に搭乗した。

飛び立つて間もなく水平飛行に入ると、機長よりのお知らせが「この先、低気圧に入るので機体が揺れますが、航行に支障はございません」と「シートベルトは外さずに御着席ください」・・・アナウンスが終わるや否や厚い雲の中に突入、富士島手前、上空から大きな揺れが襲ってきた。窓の外では閃光が走る！ おお、これは本当に天候が悪いんだと実感していくのでした。



離島船も雨は降っていないが、いつ降ってもおかしくない

石垣空港に着陸態勢に入る、分厚い雲を突っ切り左右に揺れながら無事着陸。窓から見る空は、いつ降ってもおかしくない空模様。海の荒れ模様が気になる、離島行きの船は大丈夫なのだろうか？ 少し不安になり急いで離島船ターミナルに向かうバスに乗った。



大原港のすぐ近くの「民宿・池田屋」さん。
シーワーカーの果汁を絞り食べる、オバーの「ニガナの白あえ」は美味しい！！

朝食を買いに行こうか、どうするか部屋でゴロゴロ悩んでいると、大女将のオバーが「お昼ご飯食べる？」と聞きにきてくれた。外は曇り空、出かける気分にもなれず、ありがたいただきました。初めて「池田屋」さんに宿泊した時から、オバーはいつも何かと気にかけてくれていた。ある時は

四日目 西表島上原 西表再上陸も、曇りのち雨

朝、「マイトウゼ」母屋で鉛色の空と海を眺めつつ朝食を食べ、その後は「ぼく」と上原行きの船を待つだけだった。昼が過ぎ、少し荒れ気味の海を保兄の船で上原に戻ってきた。保兄と一旦別れ、宿にチェックイン。部屋で一息つくも、なぜか腹が減る。何もしていないのに・・・いつもならスィーパーでお弁当を買って、浜辺で広げるのだけど、この曇天ではそんな気分にもなれない。保兄に車を借りにいき、西表の西の端・白浜集落にある島内老舗「レストラン白浜」に朝食を食べにいった。朝食後、この天気では行く所もなく真直ぐ宿に戻り、部屋でゴロゴロと読書とした。夕方から始まる、保兄との宴会の「英気を養う」ためだと納得させ、暗く重い空を窓から眺め息を潜めた（苦笑）。



島内老舗「レストラン白浜」のカツ定食。ボリュームが凄い。



豪華なメニュー〜、「空州ブランド」のム、豚肉とほうれん草・卵焼き、ゴーヤチャンプルに「ミシュン」唐揚げ、カマイ（唐球イノシシ）チャンプル、コブシメ（コウイカ）のお造り！！

五日目 西表島上原 雨のち曇り・・・の中、行軍は続く。

朝、宿の屋上から上原を見渡せば、雨に煙る山々が見える。南国とは思えない水墨画的な色合い・・・、本日もすることもなく午前中を部屋で過ごす。昼過ぎには、さすがに部屋にいるのも飽きてきて「デンサーターミナル」に散歩するも売店は閉まっていて待合客も居ない。「うん、流石に閑散期だ」と変な関心を示すも、気持ちを切り替えてターミナル前の「デンサー食堂」で朝食を食べることになった（いつものこ

お昼に「おにぎり」を持たせてくれたり、ある時は「餅（手作り）」を持たせてくれたりと。本当にお世話になっていた、そんなオバーも鬼籍に入っている・・・（寂しい）。

二日目 西表島大原 朝から曇り、予報は「雨」！

雨予報なので朝食後、とりあえず今日も部屋でゴロゴロ。昼前には、降ったり止んだりの雨、近くの玉盛スーパへ朝食を買いに行くだけの怠惰な日中を過ごした。午後三時ごろ、「池田屋」の大將・守兄（オバーの息子で大吾くんの父）が「夜のおかず、釣りに行くか？」となかば強引に釣竿を渡された（笑）。小雨の中、歩いて五分の港橋の護岸から糸を垂らした。程なく、晩ごはんに丁度良いサイズのチヌが人数分釣れて「釣り終了」。一時間弱で部屋に戻った。夕食時に、雨は本降りとなっていた。激しい雨音を聴きながら、守兄と夜更けまで酒盛りを楽しみ、この日は終わっていた。明日は西部の上原に移動をして、西表島の沖に浮かぶ鳩間島へ向かう。



この日の釣果、チヌ3匹。板前の守兄が調理し、晩ごはんのおかずになったチヌ。羨望の目線です。予報は明日も雨だった・・・





曇天の日ピナイサーラの滝

とだけど・笑)。
お昼時間は島民の方たちで混み合うが、少し時間を外せばゆつくりと食事が取れる「デンサー食堂」です。オーダーしたのは、「みそ汁定食(現在は無くなりました・涙)」。深酒の次の日には「これ!」という感じの味付け、野菜がいっぱいで豆腐がゴロリ、半熟卵がプカリと浮いて、隠し味に生姜の風味! 味噌汁が完全におかずになる「のんべ」のための定食」、また食べたいですね(復活をお願いします!)



前に座る上原集落、目の前が「デンサー食堂」です。今はメニューから無くなった「みそ汁定食」、復活を心待ちにしていますよ!

お腹を満たしつつテレビニュースをボウッと見てると、携帯が震えた。保兄からの電話だ。要件は「今日、三時に店の前に集合。夜の肴を仕入れに行くよ」と話し通話は途切れた・・・。

午後三時・曇天、店の前で待っていると保兄が現れた。その姿は迷彩服に身を固め、やはり迷彩のキャップを被り、背にはリュック、右手には何やら怪しげな鉄の棒、そして足元には妙にアンバランスな白い長靴・・・どう見ても東南アジアか中南米のゲリラに見える(ごめんなさい・笑)。その服装装備を見て、これは山か海に行くのだと察知し、自分の足元を見れば無防備な島ぞうり・・・慌てて履き替えに行こうとしたら、「磯だから大丈夫さ」と、これまたなかば強引に車に乗らされた。

向かうは車で一〇分、デンサー食堂から海中道路を渡り、少し走ったところに車を停めた。防風林で海も見えない場所・・・車から降りると、間髪入れず防風林の茂みの中へ消えてゆく保兄。こちらはハブが怖いけど、置いていかれるのも嫌だから意を決して茂みを掻き分け後を追うのだ。防風林を抜けると曇天だが気持ちいい潮の香り、広々とした遠浅の磯が沖まで広がっていた。

間髪入れず、鋭い目つきで水面を睨み付け、怪しい鉄棒を構え沖合に進む、二人だけのポンコツゲリラ部隊だ。曇天で透明度がやたら低く、海中の動くものさえ見つけられない有

様。仕方なく、小さなタカセガイとアオサに狙いを定め集めることにした(苦笑)。

我々の他に誰もいない磯に、鋭く海面を叩く炸裂音が数度轟いた! さらに激しく、水飛沫をあげ! 遠く離れた保兄が叫ぶ! 「大物が獲れたさ!」。急ぎそばに寄り見てみると、なんと「ウツボ」・・・黙って見ていると私に「でくじま〜さん(すごく美味しい)」と一言、海のギャング対ゲリラの死闘を終え、満足げに岸へと帰っていく保兄をただ見つめるだけだった。



遠浅の磯を沖に向かい、何かを探るように進む様になる「ゲリラ」の隊長さん。死闘の結果、獲れたウツボを上げ運送する我々だ。これを誰が調理するのは謎だが(笑)。

当然、この夜のメインディッシュは戦いに負けたウツボになった。ウツボはコーゲンたっぷり、食感がよく、酒の肴に丁度よかった、美味いぞウツボ!!!



この日の宴会メニューのメイン「ウツボの味噌煮」。他には「ウツボ唐揚げ、タカセガイ塩茹で、とりタタキ」だった。

六日目 西表島上原
旅の終盤やはり最後まで・・・曇りのち雨

西表に入って六日続いての天候不良、さすがに何もしないことに罪悪感が湧いてくる。せめて、観光ポイントにでもパトロールに行ってみることにした。最初に向かったのは、昨日ウツボをゲットした磯の手前の「ピナイサーラの滝」へ。雨が多いので滝の水量も多く、滝自体はよく見えるけど・・・次に向かう。海中道路「イリオモテヤマネコの銅像」より車で約五分、住吉集落にある「星砂の浜」へ到着。この浜は名前の通り「星砂」でできている浜で、天気の良い日には観光客で賑わっているのだけれど、浜に降りる頃には雨が降り出した・・・人は誰もいない。磯を歩けば転ぶし、雨ですぶ濡れになるし、この時点で心が折れ宿に戻ることにした。

へこみがちに宿のベットにゴロリ、今晩は西表島最後の晩餐が待っている、「よくぞ我が肝臓よ、ここまで持ち堪えた」と褒め称え、しばしの仮眠を取ることになった。数時間後、携帯のベルで起こされた、通話ボタンを押すと「何してる? 用意はできて、早く来い!」「ガチャ!」。寝ぼけた頭で時計を見れば、まだ五時過ぎだ・・・「こんなに早くからスタートするの?」と思ったが、保兄宅に向かった。

宴会場になる離れに着くと、テーブルの上には西表で採れる「山菜の天ぷら」がど〜んと用意されている。山菜は全部、保兄の奥さんが摘んできて調理していただいたもの。毎度、毎度、ご迷惑をおかけしてありますが、みちよネー! ありがとうございます。



天ぷらのメニューは「オオタニワタリ、ホウヒカンジュ(シダの仲間)、魚タケノコ」、それに保兄が焼いてくれた「芋飯」だ。

その山菜の種類は「オオタニワタリ、ホウヒカンジュ(シダの仲間)、魚タケノコ」、普通では滅多に食べられない食材です。毎日の宴会で疲れた胃腸を癒してくれる。そんなこんなでこの夜も大いに呑んで、西表最後の夜は終わって行くのでした。この旅は一ひたすら、食べ呑むだけの、体験したことがない旅になった。それと、島民の方たちの温かいもてなしにどっぷり濡れ、甘えさせてもらった。曇天なんて関係なく、心に残る南の島でした「感謝、感謝」。

酒/四季桜特別純米酒 はなのえん (栃木県)
肴/くらかげ豆

二献目

宇都宮酒造
よしのもと特別純米
原料米 五百万石
精米歩合 五〇%
日本酒度 非公開
酸度 非公開
アルコール分 一六%
産地 富山県富山市婦中町下井沢

本日は、富山県富山市「吉乃友酒造」さんの看板銘柄「よしのもと特別純米」での一献です。この酒蔵は「良心的な酒を造り」と「気軽に楽しく飲む」そして「幅広いジャンルの料理と調和」をコンセプトにしている。原料米は富山県産「五百万石」を使用して、蔵の敷地内にある井戸から立山連峰からの伏流水を使用している。その上、じっくりと長期低温醗酵をさせていくんです。その味わいは、癖もなくスツキリとしながら、ガツツリと米の旨みを感じられる！程よい香りも飲みやすい！「気軽に飲んでいただける純米酒を目指しています」と言ってるだけある、気取らなく肩の力を抜いて毎晩飲めるお酒です。



酒は日本酒、四季など関係なく燗酒一筋。
真夏に汗かき呑むゆる燗、真冬に心を解かす熱燗を。
一献一合、酒場の隅で旅路を思う、
一合一肴の旅に出る。
階段昇って席に着く、今日の品書き何だろう、
それが本日の目的地。

一合一肴 ITIGOU HITONA



あわす肴

河内鴨のキモ串焼き 時価

料理のジャンルを選ばなく何でも合う、真面目な日常酒に合わせたのは「ちよつと曲者」を大将が薦めてくれた(笑)。それは生でも食べられるくらい新鮮な「河内鴨の肝」だ！大将が「どうする？」と聞いたので、軽く塩で焼いてもらうことにした。その鴨肝は、とにかくクセが少ないことに驚いた！？酒の肴位は弱いかなと思えば、口内を旨味のコクが飛び回ってくるぞ！肝の苦手な人にも一度味わってほしい一品です。

酒/鷹勇 純米吟醸・特幸 (鳥取県)
肴/カブラ漬け

九献目

大谷酒造
鷹勇 純米吟醸・特幸
原料米 山田錦・玉栄 精米歩合 六〇%
日本酒度 十七・八 酸度 一・八
アルコール分 一五% 産地 鳥取県東伯郡琴浦町

鳥取県
東伯郡



今日の一献は創業明治5年、鳥取県の中央に蔵を構える「大谷酒造」さんの辛口の二本「鷹勇 純米吟醸・特幸」を紹介です。その名の通り「特幸」なのだけど、角がなぞ滑らかな辛さに仕上がっている、低温長期醗酵なだけある！辛さばかりに気を取られてはいけない、ちゃんとした米の旨みも感じキレもある。甘さを極力削ったストイックな辛口に仕上がっている。酒蔵のことを調べてみれば、「大谷酒造」の杜氏さん二人(二代続けて)が「現代の名工」に選ばれ「黄綬褒章」を頂いている！！「現代の名工」の系譜が感じられる特別な辛口を呑めば、発する言葉は全て甘口になるのだ(笑)。

あわす肴 カブラ漬け 四〇〇円

ストイックな辛口の「鷹勇」には、ストイックな食べ合わせらしく「カブラ漬け」でじっくりお酒を味合うつもりだったが！？この「カブラ漬け」旨いんですよ、ちょうど良いつかり具合で「カブラ」の食感も楽しんで、しよっぱ過ぎずに酒の肴にちょうどいい塩梅に仕上がっている。花鱈もたっぷり乗っている、お酒を楽しむには至極の肴だよ。



酒/十六代 九郎右衛門 産生・特別純米 金紋錦 (長野県)
肴/さば(大) 塩焼き

九献目

湯川酒造店
十六代 九郎右衛門
産生・特別純米 金紋錦
原料米 金紋錦 精米歩合 六〇%
日本酒度 非公開 酸度 非公開
アルコール分 一六% 産地 長野県木曾郡木祖村

長野県
木曾郡



本日は山深い、長野県木曾郡から創業三三〇年を超える「湯川酒造店」さんの「十六代 九郎右衛門 産生・特別純米」で二献です！このお酒の原料米「金紋錦」は、長野県北部の木曾平のみの栽培で「村外不出」と言われているお米で仕込まれているんです。では、ゆる燗でいただきますと、びっくり！産生らしからぬ優しい口当たり、フルーティーはフルーティーなだけでなく、「存在感」もある、追っかけ苦味も感じる、相対する複雑なハーツを上手く収めたお酒になっている。ちなみに銘柄についている「十六代」は、十六代目の時代に造ったお酒ということなんですよ。一七・一八代と続いているんです。

あわす肴 さば(大) 塩焼き 七八〇円

フルーティー感を感じる産生特別純米には、しっかりと肴が欲しい！ここは「さば塩焼き」をチョイス！サイズも「大」をです！写真では大きさが分かりにくいと思いますが、厚みと言いつつサイズが半端ないですよ。じっくり弱火で炙ったサバちゃん、中身までちゃんと火が通っていて、皮もパリッと焼きあがっている。青魚の旨味とお酒のフルーティー感を楽しめる、肴の中の魚です(白ごはんも欲しくなります・笑)！



酒/熟露枯 山廃・純米酒 洞窟低温熟成酒 (栃木県)
肴/大和肉鶏手羽先塩焼き

二献目

島崎酒造
熟露枯 山廃・純米酒
洞窟低温熟成酒
原料米 酒造好適米
精米歩合 六五%
日本酒度 十一・五
酸度 一・八
アルコール分 一七・一八%
産地 栃木県那須烏山市中央



あわす肴
大和肉鶏手羽先塩焼き
三八〇円

洞窟で育ったお酒に対して、万葉ロマンあふれる奈良で育った「大和肉鶏」で勝負だ(なぜ勝負なのかわからないが、笑)。この奈良ブランドの地鶏は賢沢なんですよ、エサには何と! 奈良産のお米を食べさせているんです。お米を食べさせることで肉質が向上して、脂肪分が少なく適度な弾力性が出るんですって。こんがり焼けた手羽先に「ガブリ!」、肉汁が「タラ〜リ」と滴る。お米のお酒と米を食べ育った鶏の相性が合わないわけないよね、今宵も良い一献でした。



今宵の一献は「一度目の登場 洞窟熟成の「熟露枯」さんから旨々熟成酒「熟露枯 山廃・純米酒」です。熟成酒の中の熟成酒! その訳は、冬に住込んだお酒を約一五〇日ほどのタンクで夏を越させ熟成させ、その後、瓶詰めをして低温の洞窟で長期間熟成をさせる「二段構え」その色はほのかに琥珀色に色づいている、熟成酒好きにはたまらない色だ!そして、淡いカラメル風の風味の後に上品な旨さが広がり、旨味がきっちり追っかけてくるぞ。円熟してまるやかないお酒ですよ。それと驚いたのが、熟成酒なのにフランスの権威ある日本酒コンクール「Kura Maje」の純米酒部門で最優秀賞に選ばれているのです! フランス人にも熟成酒の旨さが伝わったんだな。

あわす肴 割り干し大根の煮物 四八〇円
清涼感を感じる白濁のにごり酒に合うのは、色は悪くとも噛めば噛むほど大地とお日様の味がする「割り干し大根」だ。割り干しは千切りと違い、食感がしつかりと楽しんで、だし汁を沢山染み込ませているので酒の肴にちょうどいい。冬の寒さに天日干して旨さ満天の「割り干し大根」には、雪のようににごり酒がいい景色を奏でるのだ。今宵もこの酒と肴に感謝。

酒/純米 溪 にごり (島根県)
肴/割り干し大根の煮物

三献目

王祿酒造
純米 溪 にごり
原料米 山田錦
精米歩合 五五%
日本酒度 未公開
酸度 未公開
アルコール分 二六・五%
産地 島根県松江市東出雲町播屋



今宵は大将からの振る舞い酒での一献! 振る舞ってもらったお酒は、島根県松江市に蔵を構える「王祿酒造」さんの「純米 溪 にごり」を紹介です。この酒蔵さんは、ひとタンク分のお酒を「ブレンド、濾過せず、すみやかに瓶詰め、低温で瓶貯蔵味が整い次第発売」というスタンスを貫き通しているんですよ。その完成したお酒の出荷には「二五度の冷蔵庫で保管できる」が条件で、その上、王祿酒造さんの酒造りを理解して説明が出来る販売店にしか売らないらしい! うん、凄く自信だ。その味わいは! 上立ち香は甘〜いフルーツを感じさせる香り、口に含めば「シユワツ」としたガスが刺激的に舌を襲う。口内に感じる刺激の後に、なにより柔らかい米の旨みが広がってくる。にごり酒によくある「甘ったるさ」や「べた付き」が無く、スッキリ、爽やかな味わいです。まさしく、自然の溪流を感じさせるお酒です。

あわす肴 赤なまこぼん酢 六五〇円

幻の「渡船」に合う肴は、これも今や食卓で幻となつてい「赤なまこ」だ。子供の頃に「なぜ、こんなものを大人は食べるのか?」疑問だったか。笑。酒の肴界では高級珍味に出世、ひと昔には魚屋のトレーに「ゴリッ」と囁むの香りが膨らむ「なまこ」ちゃん。少し癖のある潮の風味を楽しんで、また「渡船」を一献 そうしている間に遠い思い出が蘇る、棧橋で魚が釣れる海底にゴロゴロしている「なまこ」を針で引つ掛けていたことを。

酒/渡船 五十五 純米吟醸 (茨城県)
肴/赤なまこぼん酢

五献目

府中譽場
渡船 五十五 純米吟醸
原料米 渡船
精米歩合 五五%
日本酒度 不明
酸度 不明
アルコール分 一五%
産地 茨城県石岡市国府



本日の一献は、茨城県石岡市「府中譽」さんの「渡船 五十五」を頂きます。このお酒の原料米「渡船」は、酒米の最高峰「山田錦」の正真正銘のお父さんなんです。一九九〇年前半に幻と言われていた「渡船」を復活させたのが「府中譽」さんなのです。その「渡船」を原料米で醸造して生まれたのが、「渡船 五十五」なのだ。そのままの名酒ですね、分かりやすい。では、頂きます。香りは、常溫時に甘い匂いがほんのりした、畑にすればあまり感じなくなつた。呑んでみると優しい甘味とコクが口内に広がる、後口には酸味と渋味が少し感じられた。この渋味がいいアクセントになっているぞ。複雑に絡み合う風味を、バランス良く整えている、これが幻の「渡船」味かと納得の一献だ。

酒/廻 山廃純米 (三重県)
肴/おでん (厚揚げ・牛すじ)

九献目

後藤酒造場
廻 山廃純米
原料米 山田錦
精米歩合 六〇%
日本酒度 十三
酸度 一・八
アルコール分 一五・一六%
産地 三重県桑名市大字赤尾



あわす肴

おでん

厚揚げ二〇〇円 牛すじ二八〇円

本日の肴はどんなお酒にでも合う、万能肴「おでん」にした。ムラタ屋では冬季十二月から二月まで隔週で「おでん」がメニューに上がる。今シーズンは一度も食べていなかった。今日のような寒い夜にはこれに限る! 透明な出汁に浸かってしつかりと味が染みだした「厚揚げ」、「牛すじ」とは名ばかりの柔らかく赤身を感じさせるムラタ屋の「牛すじ」。出汁の旨味と酒の米の風味が「早く、春よこい!」と廻のように通り過ぎていった。



本日は「その手は桑名の焼き蛤! (笑)」の三重県桑名から「後藤酒造場」さんが醸造する「廻 (はやて) 山廃純米」で一献。この酒蔵は、家族で酒造りをする小さな酒蔵なんだけど、創業の志の高さに感銘を受けた! それは、桑名西方に、古代朝廷の醸造に従事した部民「味酒臣 (うまさけのおみ)」ゆかりの地があるらしい。その地で長年歴史を刻んでいた酒蔵が、突如廃業することになった。そのことを知った後藤宗左衛門 (初代・創業者)さんは「歴史を途切れさせてはいけない」と、酒蔵を買い取り創業した。なんと志高きお方だ! その思いを胸に頂こう! 猪口を鼻先に運べば、

緑葉のような爽やかな香りがする、口に含めば米の旨味が廻の如く追いかけてきた

当然、山廃仕込の酸味もちゃんと感じる、後口にはキレのある旨酒だ。畑にすれば、さらに

キレ味が増しますぞ! 「その手は桑名の焼き蛤」じやなかった! 一度、この手に乗ってください、裏切らないお酒です。



本誌からのお知らせ

ソノひびヨリ

次号予告 (4~6月・初夏号)

連載

ソノひびヨリ

第三二話 奈良県・飛鳥

ライトに古墳・万葉飛鳥一日観光

第三三話 奈良県・五条

吉野川に泳ぐ鯉のぼり、五条巡り

おれがむらただ一合一肴 九八献目から

信濃錦・超玄(長野県)、福小町 純米吟醸(秋田県)その他



特集

還暦前、写真家の「写して候・寄って候」 天皇御陵踏破の旅

第一〇三回 江戸時代・後期より
一一八代 後桃園天皇陵から



飛鳥・石舞台遺蹟



五条・吉野川

旅を始める前に

第十二回

50年の「旅」は、感謝の「旅」へ <完結編>

世界拳闘紀行 第十四話

mofmof 推し歩き

ブチモフ動物探訪行ってみたZOO～
神戸市立王子動物園



※記事内容は一部変更になる可能性があります。

編集後記

ついでこの間、新年を迎えたいと思えば「あつー」という間に年の開帳時期……。歳を取ると時間の経過も早く感じるものです(笑)。元旦早々に此降で大きな地震が発生した。その時は私はお部屋の隣り、電車の高層ホームで揺れに遭遇。長く続く揺れで「これは只身じゃなし」と思い、ネットを構築し「津波発生」川原津津地方を知った。「マグネティック」七、八、とんでもなく大きな地震がまた起きた。…、輸送車では被災が発生して…、日に日に被害の大きさが分かってきた。新型コロナウイルスが終息せず…、政府・地方、丸になり早くの復興を心からお祈りいたします。

それと、もう一つ気になったニュースがあった。この二ヶ月間で、一度も大阪湾にクジラが迷い込んできたのは「マッコウクジラ」だった。海底での異変などが関係しているのだろうか? 天変地異の前触れなのだろうか、興味本位で現地に行ってみた。現地は工業地帯のど真ん中、護岸には柵があり、直近で海を見渡すことができなかった。…、当然、クジラを確認することなんてできなかった。せめて情報収集でもと思い、近くに居たホエールウォッチャーらしき翁に話しかけた。すると翁が「昔は(戦前)年に数度、海にクジラが釣られてきたもんだ。その時もよく目には来たよ」…、また、戻って来たんだと思い、喜んで見に来たんだ」と話してくれた。その話を聞きながら聞いていたが、胸の内は天変地異の前触れでなく良かったと胸を撫で下ろした。

さて、次号の話を再考してはなりませんね(笑)。…、還暦前、写真家の「写して候・寄って候」天皇御陵踏破の旅は、いよいよ江戸の後期から近代へと次号で終旅となるのか? はたまた、まだまた続くのか? 紀行中は、奈良・飛鳥と五条の予定、五条では珍しく警備を申したい(笑)。その模様をいろいろと書いてきた。…、ブチモフ動物探訪行ってみたいZOOのやまんなかさまさんたちは、神戸市立王子動物園にはなる北海道から来てくれたホヰョウクマの「ゆめちゃんに会いに行くぞうです」。世界拳闘紀行「こびとロックくんは東京ドームで開催されるピクマッチに行きたいがチケットの抽選が当たらないかも! また、おれがむらただ!」…、一合一の舞台「酒のムラ小屋」では大村さんがワンオクに挑戦して、この先どうなることか心配しながら「隠れて」献じている。次号もよろしくお祈りします。

酒 / 白老 純米酒 であらから (愛知県)
肴 / からし蓮根

九献目

澤田酒造
八王 純米原酒
原料米若水 精米歩合 七五%
日本酒度+10 酸度2.1
アルコール分 15.1~16%
産地 愛知県常滑市古場町

愛知県
常滑市



本日の一献は、愛知県・知多半島は常滑で二八四八年から続き、昔ながらの道具と手づくりを大切に造り出した「澤田酒造」さんからです。その名も「であらから」…、気合十分、やる気満々の銘柄名! このお酒は、「昔どりの家庭にもあった気取らずに飲める晩酌用のお酒」を目指して造られたそうです。そのお味は、香り穏やか、名の通り「辛口」だけど軽やかなんですよ。精米七五%だけあって「米」を感じさせる旨味、酸味で味の輪郭を整え、最後に「渋み」を併い切れていく。ゆるゆるでは、さらに奥行きが出て「昔し懐かしい」味わいになって自然と杯が進みます。この辛口、幅広い料理に合いそうです! 万能辛口旨酒です。

あわす肴 からし蓮根 五〇〇円
そんな「どえれ辛い」酒に合わせるには、熊本さん「もつこす」な「からし蓮根」をいただくことにした! この厚切りが飲兵衛を泣かせるよ、大将「カリッ」とした食感と糸を引く国産蓮根の粘り、「がつぐん」と押し寄せる辛さを感じ! その刺激的な辛味を、「であらから」の米の旨味で中和する。辛味には辛口で勝負したが、これ合いますね(笑) 一度、お試しください。ああ、今宵もい酒と肴だった。

酒 / 米百俵 純米酒 (新潟県)
肴 / 鳥の唐揚げ

九七献目

栃倉酒造
米百俵 純米酒
原料米たかね錦 精米歩合 五七%
日本酒度+14 酸度1.4
アルコール分 15%
産地 新潟県長岡市大積町

新潟県
長岡市



あわす肴 鳥の唐揚げ 八五〇円
真面目で気骨を感じる「米百俵」には、ちよいとジャンキーな肴を合わせてみたくなった。そこでチヨイとしたのが「鳥の唐揚げ」なのです。「ゆっくりに火を通すから、少し時間がかかるよ」と「ハイ!」全くもって問題ありません。(笑)
待つこと、二〇分、熱々、シューシーな唐揚げが登場。かぶりつけば、確かに歯応え! いい鶏肉を使っている。それに、全くしつこくなく「米百俵」の邪魔にならない。下味を大将に聞けば、「ニンニクは使わず、生姜だけ。年齢の高いお客さんが多いからね」と、さすがです! ポリユームが多かつたけど、最後まで胸焼けもせずに完食できました。日本酒に唐揚げ、新しい境地を得ましたよ!



今宵は、新潟県を珍しい淡麗辛口じゃない「旨味」をしつかり感じさせる、お酒の紹介です。新潟県長岡市で蔵を構える「栃倉酒造」さんの「米百俵・純米酒」、原料米は全て契約栽培「たかね錦」を使用し、西山連山の清冽な湧水を仕込み水として醸造している。呑めば、派手さはないが、米のコクをしっかりと感じられる。あえて「酸」を強めに残しているが、絶妙なバランスで整っている! ラベルの表示は「純米酒 だけど5%の精米って、特別純米酒」じゃないですか(笑)。爛で頂けば、頃合いの良い「コク」が広がる旨なお酒です。